

# 令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部産業課

市民経済部長 大山 仁志

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
13-1	就農者支援事業	あり	B	県やJ A等の関係機関と連携を図り、認定新規就農者を2名確保した。また、新規就農者の農業経営を支援するための農業次世代人材投資事業補助金を新たに2名に交付し、合計8名に補助金交付や就農状況確認を行い、就農後の定着を図った。(離農者0名) また、農業大学校を訪問し、半田市独自の就農者向けパンフレットの配布及び半田市で就農する魅力についてPRを行った。	拡充 推進	引き続き、県やJ A等の関係機関と連携を図り、新規就農者の確保へ繋げていく。また、新規就農者向けパンフレットを活用し、農業大学校等にて半田市で就農する魅力についてPRを行う。 さらに、就農後も将来の担い手に繋がるように、新規就農者育成総合対策事業を活用し資金面での支援を行い、離農者0名を目指す。
13-2	農業振興地域整備 計画策定事業	あり	A	意向調査の内容を簡素化を図り、回答しやすい調査票を作成した結果、目標値を上回る回収率を達成することができ、調査結果を基礎資料に反映させまとめることができた。今後は、基礎資料を踏まえ計画の見直しを進めていく必要がある。	現状 維持	2か年で見直す計画のため、令和4年度も引き続き計画の見直しを進める。見直しにあたっては、愛知県等関係機関と調整を図り、担い手の確保等の情勢に応じた農用地面積の確保や、開発案件を位置付けておくことで、スムーズに土地利用調整を図ることができるようにする。
13-3	愛知用水二期	あり	B	用水を安定的に供給するとともに、営農の合理化を推進し、農業生産の向上及び農業経営の安定が図れた。	改善 推進	この事業は令和3年度で終了となるが、引き続き施設の維持管理を推進し、農業生産の向上及び農業経営の安定を図る必要がある。
13-4	畜産環境対策推進 事業	あり	D	堆肥を市外に搬出するための運搬費、消臭用コーヒー敷料の購入費、消臭薬剤の購入費等の補助を行うことで、畜産臭気に対する苦情の増加を抑えた。しかし、畜産臭気に対する苦情は無くなっておらず、更なる事業推進が必要。	拡充 推進	畜産臭気に対する苦情は、無くなっておらず、更なる事業推進が必要。
13-5	畜産・酪農収益力強 化整備等特別対策 事業	あり	B	中心的な役割を担う畜産経営体の施設等を整備する取組を支援することで、地域関係者の収益性の向上が図られた。	改善 推進	引き続き、競争力強化のため地域関係者が連携して、地域全体の収益力向上を目指す事業を支援する必要がある。
13-6	揚水場ポンプ修繕事 業	あり	B	水中ポンプ整備及び深井戸浚渫等を実施し、農業用水の安定供給が図られた。	現状 維持	引き続き、水中ポンプ整備及び深井戸浚渫等を実施し、農業用水の安定供給を図る。
13-7	たん水防除事業 (阿久比地区)	あり	B	老朽化した阿久比排水機場を更新して機能回復を図るための工事に着手することが出来た。	改善 推進	引き続き、集中豪雨などに起因するたん水被害から地区内の保全を図るため、老朽化した排水機場の更新を図る。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
13-8	農業用ため池保全・ 防災減災対策事業	あり	B	防災重点ため池である午ヶ池の耐震整備工事に着手することが出来た。また、経年劣化により改修が必要となった山神池の工事を完了することが出来た。	改善 推進	防災重点ため池の耐震整備の推進を加速しながら、豪雨対策整備事業も着手していきたい。
13-9	産業・観光振興計画 策定事業	あり	A	本市を取り巻く社会経済情勢の変化や第2次計画での進捗状況、課題を踏まえつつ、今後10年の農業・商業・工業・観光の産業に関する大きな方向性を示すことができた。 その中で先導プロジェクトとして、特に計画期間内の前期に優先的・重点的に取り組む施策を示したことで、メリハリのある計画とすることができた。	終了	本計画の実現に向け、各分野において必要な取組を実行する。 また、計画の推進に向け、基本成果指標の進捗管理を行うなかで、実施状況や効果の検証を行う。
13-10	はんだふれあい産業まつり開催事業	あり	E	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止することとなった。多くの人が来場する大規模イベントであり、令和4年度以降も感染状況等を見ながら判断することが必要であるが、本事業は地域産業を支える事業者や取組を広く市民に知っていただくための効果的な事業であり、市民も楽しみにしているため、これまでの開催方法に拘らず、社会情勢に応じ柔軟に対応する必要がある。	拡充 推進	未だ新型コロナウイルス感染症の感染状況の見通しが不明であるが、感染対策の徹底や飲食エリアの制限など、感染状況に応じた対策を講じた上で開催できるように検討を進める。
13-11	企業立地・創業支援 事業	あり	C	令和3年度は、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響が国内外で収束せず、部品供給不足等で工場が操業停止する等、全国的に企業活動は停滞している。市内においても同様の傾向が見られ、先端設備等導入計画の認定件数は7件と減少したが、企業再投資促進補助金を活用し1件の企業立地を支援することができた。一方で、起業・会社設立支援補助金については、令和2年度は未交付であったが、令和3年度は目標値の4件を交付し創業を支援した。また、事業活動の環境改善を検討するため、臨海部工業団地の慢性的な渋滞対策に関する勉強会を立ち上げた。なお、市内事業者を支援するため相談を積極的に行っているが、事業拡大は経済情勢等に大きく左右されることが課題である。	拡充 推進	今後も引き続き事業者支援を推進し、雇用創出、安定的な税収の増大を図るとともに、コロナ禍においても市内で企業活動が行いやすい環境を整備していく。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
13-12	工業団地造成事業	あり	C	令和3年度は企業庁と協議しながら土地利用計画図を作成し、審査項目となる事業採算性の検討をすることができた。その後実施した地権者を対象とした説明会により、短期間で大半の地権者から同意書を取得することができた。今後は第2回の審査会に向け、審査要件を満たすための準備を関係機関と協議しながら円滑に行う必要がある。	拡充 推進	今後は工業団地の早期事業化に向け、全地権者からの同意を得るとともに、関係機関等の調整を密に行い、事業の課題を解決する必要がある。
13-13	中心市街地活性化支援事業	あり	C	商工会議所まちづくり推進室と連携し、チャレンジショップ事業の実施や、商店街等が実施する地域賑わいイベントの後方支援、知多半田駅ロータリーなどの公共空間を活用した新たな賑わい創出の取組を行った。また、半田市地域振興券を活用した売上促進の企画として実施した「半田まちなか地域振興券フェア」では、半田市地域振興券を中心市街地の商店街やクラシティブで5,000円分利用して1口応募できる企画に4,599人の応募があり、中心市街地での地域振興券利用促進に繋がった。 成果指標の通行量調査を令和3年度からは通信データを活用した流動人口データでの観測に見直したが、人流減少はコロナ禍の影響を受け続けている。	改善 推進	J R 半田駅の高架事業を強く意識し、引き続き知多半田駅から半田駅間の区域を中心に活気づけていく仕掛けを、ハード及びソフトの両側面から、官民連携で推進していく必要がある。今後の中心市街地活性化の判断材料として生かしていく。
13-14	知多半田駅前再開発ビル商業施設支援事業	あり	C	コロナ禍の影響を受けながらも、定着してきている定期イベント（ライフスタイルキッチン、テラスマルシェ）の開催により、日常的な認知度向上、リピーター獲得に繋がっている。また、1階にぎわいテラスでのお弁当販売は強い集客力があり、出店者が増えながらもすぐ売切になる日もあり、集客への貢献度が高い。 駐車場利用客は、市内の大規模拡大感染により2月に再び減少したものの、年度全体では昨年度に比べて回復した。今後は、コロナ禍で挑戦したコンテンツのうち、人気のものを定例化していく予定があること、テナント入店希望者が年度末に数件続き、新年度入店に繋がる見込みから、集客の向上に期待をもちる段階にある。	改善 推進	コロナや天候に左右されず、安定した集客をするために、販売内容及び利用環境をより日常的な利用につなげるよう強化支援していく。具体的には、年度末に入店した1 F カフェの新規店舗が館内や中心市街地の情報発信拠点となり、「いつ行ってもお客さんがいっぱいを中心市街地の顔」としてのクラシティブ作りを支援することで、空きテナントへの出店や利用者向上につなげる。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
13-15	商業施設助成事業	あり	B	令和3年度は、中心市街地、青山駅周辺、幹線道路沿いといったバランスよい出店及び空きテナント活用に繋がった。また、本制度活用者からの口コミ、半田商工会議所の創業支援からの提言、HPを見ての問い合わせなど、認知度向上から予算額87.5%執行に繋がっていることは、高い効果と評価できる。今後も、予算額100%執行に向けた更なる情報発信、不動産事業者への営業などを行い、本制度や創業支援など必要なサポートに繋げていく。	拡充 推進	令和4年度からは中心市街地出店促進エリアに空き店舗の多いJR半田駅側のエリアを追加し、予算増額することで、JR半田駅高架事業及び区画整理を意識した経済活性化につなげる。また、制度周知を進めるとともに、市の空き家事業とも連携した出店希望者とのマッチングも支援していく。また、開店後の事業継続のために、店舗間連携を促し、情報発信の強化を図る。
13-16	地域振興券事業	なし	A	ゆうパックによる全戸配付で届けられなかった方がいたため、はがきによる再通知や引渡窓口を設置するなどし、目標とした配付率を上回る99.4%を達成することができた。 飲食業・小売業を始め、サービス業や小規模工事を行う事業所などでも幅広く利用できるようにしたことで、目標を大きく上回る1,455店舗に参加いただき、事業者と12万市民の両面から地域を盛り上げることができた。また、本事業と商店街イベントのタイアップを呼びかけるなど、事業者との連携による相乗効果を生み出すことができた。 まん延防止等特別措置の発令に伴い、利用期間を1か月延長するなど、感染状況等を踏まえながら柔軟に対応することができた。	現状 維持	利用期間は4月30日、換金期間は5月31日までとし、その後に利用率や事業者アンケート、経済波及効果等の効果測定を行う。また、効果検証を踏まえつつ、引き続き店舗や商工会議所等と連携しながら経済の活性化に向けた取組を実施する。
13-17	中小企業金融対策事業	あり	A	窓口である金融機関と連携し、保証料制度の周知徹底を行い、利用割合100%を維持している。	現状 維持	利用率100%を継続維持する。
13-18	中小企業金融対策事業（新型コロナウイルス感染症対策）	あり	C	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により市内中小・小規模企業の経営状況が悪化する中、地元金融機関が緊急的に実施した特別融資制度の利子について、2分の1を半田商工会議所へ補助することで、市内中小・小規模企業の負担軽減を図ることができた。	現状 維持	（融資の申込みは、令和2年9月に終了） 引き続き適切に補助を行う。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
課等長	<b>1次評価（令和3年度の総括評価）</b>					
C	<p>農業分野では、学生向けの就農PR活動や県、JA等の関係機関との連携により、2名の新規就農者を確保することができた。一方、臭気対策については、事業者に対し、消臭資機材等の補助や臭気対策の指導を行うものの、臭気発生に対する根本的な改善には至っていない。今後は、新たな臭気対策について県や他市町での取組事例を参考にするなど、調査研究を実施する必要がある。</p> <p>商業分野では、コロナ禍における地域経済の活性化策として実施した地域振興券事業を滞りなく進めることができた。また、名鉄知多半田駅前ロータリーにおいてキッチンカー設置の実証実験を実施したり、商店街や中心市街地の既存事業に地域振興券事業をタイアップさせ、売上のアップに繋げたりすることで、地域の力を活かしながら中心市街地の活性化に取り組むことができた。今後は、さらに地域の力を活用するために必要な人材の育成に取り組む必要がある。</p> <p>工業分野では、令和9年度に分譲を予定している石塚地区工業団地造成事業を工程表に基づき事業を進めることができた。また、企業支援の一環として、官民で構成した渋滞対策の勉強会を立ち上げ、意見交換を行うことができた。今後は、勉強会で出た意見を参考に、官民各々ができる渋滞対策に取り組む必要がある。</p>					
	<b>2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）</b>					
部等長	<p>【農務担当】継続的に新規就農者の確保に努めているが、併せて今後は離農者を生じさせない適正な行政支援を検討すること。臭気対策は根本的な解決に向け、畜産業者と協力しながらさらなる事業推進を図ること。</p> <p>【商工担当】コロナ禍での個人消費の落ち込み等により大きな影響を受けた事業者への支援が急務であるなかで、地域振興券事業を実施し、市内経済を動かすことができた。本事業の効果をしっかりと検証し、継続的な消費増加につなげるとともに、あらゆる社会変化に負けない力強い産業を構築するための仕組みづくりや支援策について、民間との意見交換を重ねること。</p> <p>【企業立地担当】工業団地造成事業では関係機関との協議や地権者説明会の開催により、工程表通りの進捗を図ることができた。次年度からは本格的な企業誘致に取り組み、優良企業が立地できるよう努めること。また、企業支援では、立地企業に対する補助金や工場周辺の環境改善の相談窓口となることができた。引き続き企業の成長を後押しし、さらなる本市の産業振興を図ること。</p>					
C						